

安全バックアップ マニュアル

V2.1.2 2010/7/28

(お願い)

バックアップは大切なファイルを対象にしています。
装置の特性やOSの種類によっては期待通り作動しない危険性があります。
ご利用に当たっては、十分確認をしてください。

V1.2 2010/7/4

1. 開発の狙い

既存ソフトの弱点を補強し、機能を強化することで誰でも安心できる状態を実現する。

既存バックアップソフトの弱点

「バックアップ元」または「バックアップ先」が、FLASHメモリーの場合USBポートに装着する順番が変わると論理装置番号も変わる。

ところが既存のバックアップソフトは、「バックアップ元」や「バックアップ先」を論理装置とフォルダで指定しているので論理装置アドレスが変わるとその都度バックアップ対象元と先を再設定する必要がある。

これを忘れて実行すると、バックアップがとられなかったり別の媒体を装着していると削除されることもある。
(削除されるケースは、バックアップ元に無いファイルは削除するような指定になっている場合)

また、バックアップの全体がどうなっているかがわかりづらい。

システムのバックアップでは、時間がかかるし特定のファイルのみ復元するなど細かい指定がやりづらい。

安全バックアップの機能

① デバイスにボリューム名をつけて、バックアップ元と先を「ボリューム名」と「フォルダ名」で指定する。

実行時に「指定したボリューム」が搭載されている論理装置を見つけてバックアップを実行する。

ボリューム名は「バックアップ元や先」にしたいFLASHメモリーを搭載してパソコンに認識された後で「コンピュータ」を開いて、その中にある「ハードディスク」または「リムーバブル」として割り付けられている「論理装置」を右クリックしてその中の「ファイル名変更」で名前を変更するとその名前がボリューム名になる。「C」ディスクなどの常駐ディスクも同様に設定できる。

漢字名も許されるのでわかりやすい名前をつけるとバックアップの指定も簡単にできる。

② 世代管理ができる。

日単位、月単位、年単位で複数の世代を保持する。

このバックアップは論理的な破壊をしてしまったときの戻しや昔の状態が確認したい場合に有効である。

世代バックアップの対象にするかどうかはバックアップをとるフォルダ単位に指定できる。

③ 複数のバックアップ元をひとつのバックアップ先・世代管理先に、またひとつのバックアップ元を複数のバックアップ先・世代管理先に保管できる。これにより安全性が高まる。

④ 複数のデバイスやフォルダを一箇所にまとめてバックアップをとる。

⑤ ファイル単位で前回から変更のあったもののみバックアップをとる。

⑥ バックアップを今回のみ対象外にする。

装填したボリュームの一部のフォルダを今回のみ対象からはずす。

(バックアップが必要と考えたものすべてを指定するので一時的に対象外にできる)

戻し(復元)処理

戻しの必要性が生ずる場面はいろいろな局面が想定される。

対応しようとする指定が複雑になりすぎる。

「エクスプローラー」を使って戻すことにする。

(注)

バックアップ対象ファイルに実行するユーザーで削除権限のないファイルが含まれていると

世代経過により削除する際にエラーが発生します。

この現象が生じたときは対象ファイルをバックアップ対象から除外し、エラーになったフォルダに

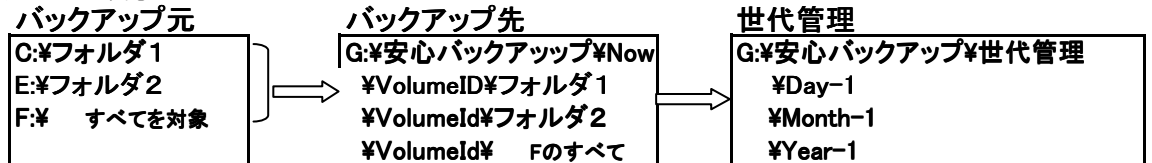
残ったファイルの削除をご自分で行ってください。(レアケースです)

2. バックアップの取り方

2.1バックアップのとり方の基本構造

同一のフォルダを複数のバックアップ先にバックアップをとることができる。
 これにより、物理的な障害に対する安全性を高める。
 世代管理は、日月年レベルとし、それぞれで複数世代が保持できる。
 これにより、論理的に破壊または削除したファイルの復元が年単位まで可能になる。

バックアップのとり方

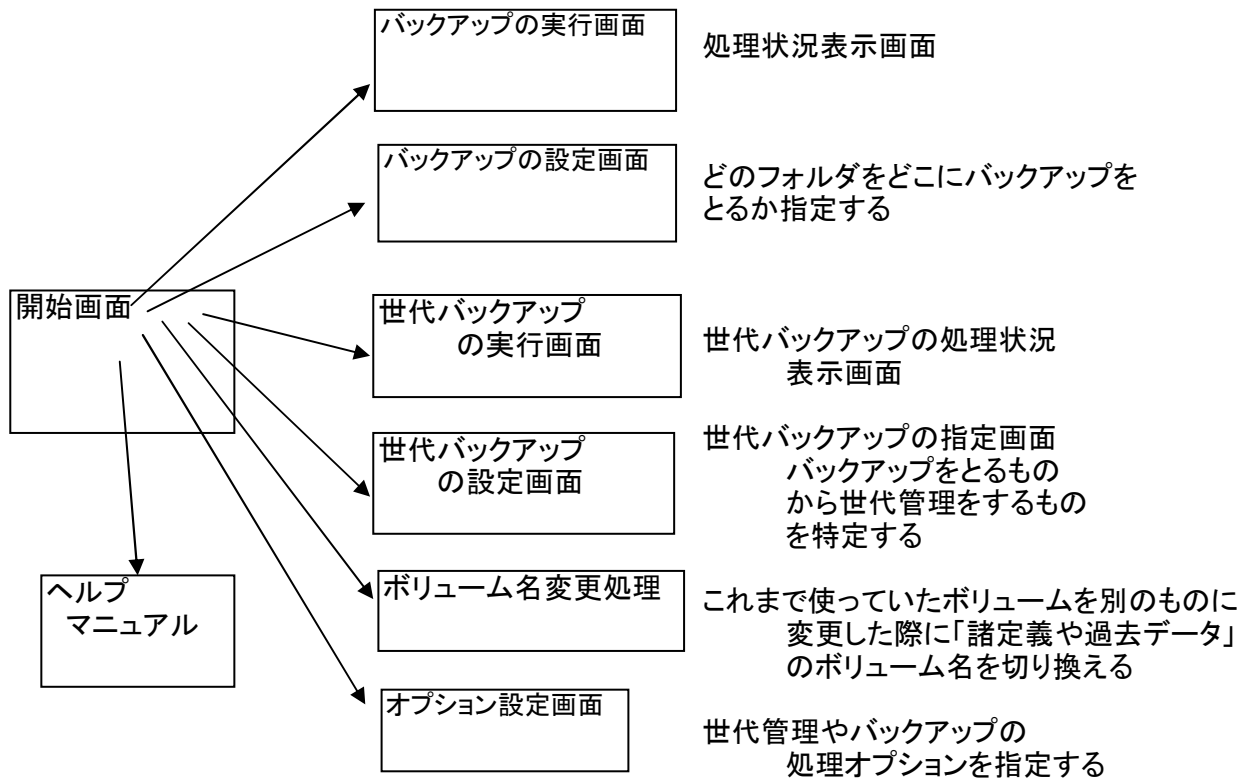


のようにバックアップ先に指定したフォルダ下(この例ではG:¥安心バックアップ)にNowフォルダを作成してフォルダ名の最上位にVolumeIDを付加して保管する。Nowフォルダには今回装填されなかったものも前回の状態で保管している。このNowフォルダにあるものを対象にして世代管理を行う。世代管理は、日月年レベルに対応してDay,Month,Yearに世代番号を付与したフォルダ名でNowと同様に保管する。

保管先や保管元の指定は、電源をいれて装填した状態で指定するので論理装置名もその時点のものをラベル名とともに保管する。実行時は、ラベル名の媒体が装填されている装置を見つけて、その装置に自動的に切り替えて実行する。

世代管理は、Nowから日レベルの世代名(Day-1)にフォルダ名を切り替えて保持する。複数世代の保持も同様に世代名の切り替えを順次繰り返すことで実施している。そのため、世代管理の実施中に中断するとその世代の保管内容が中途半端な状態になってしまう。その結果、次回以降にも中途半端なバックアップがシフトされていく危険性がある。なんらかの事情で中断した場合は、世代管理の「Day-1」フォルダをシステムで検知して削除するようにしている。(認識できた場合は確認したうえで削除を実施する)

2.2画面構成

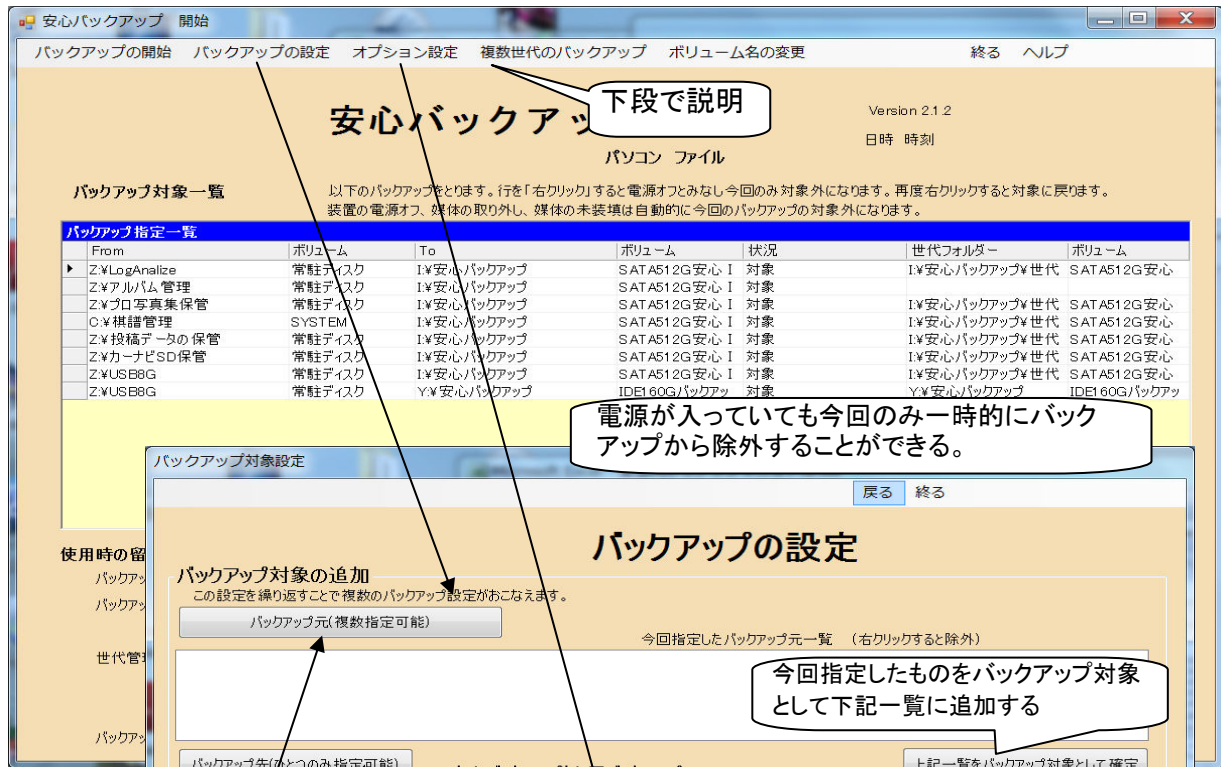


3.使い方

3.1バックアップ

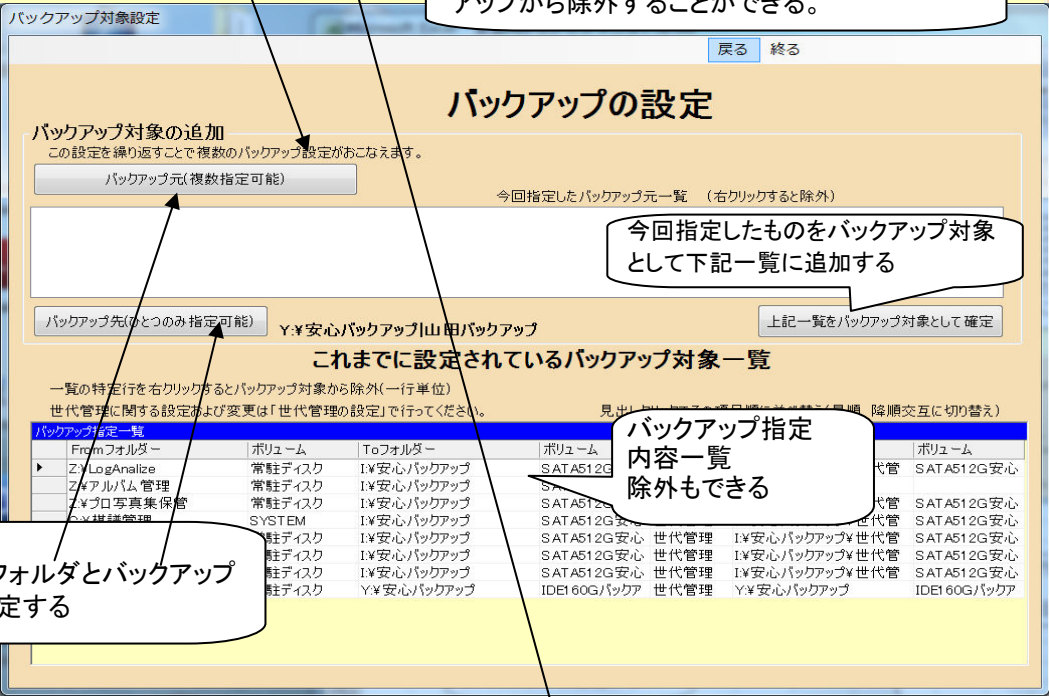
1)開始画面

開始画面下部の「使用時の留意事項」は必ず目を通してください。



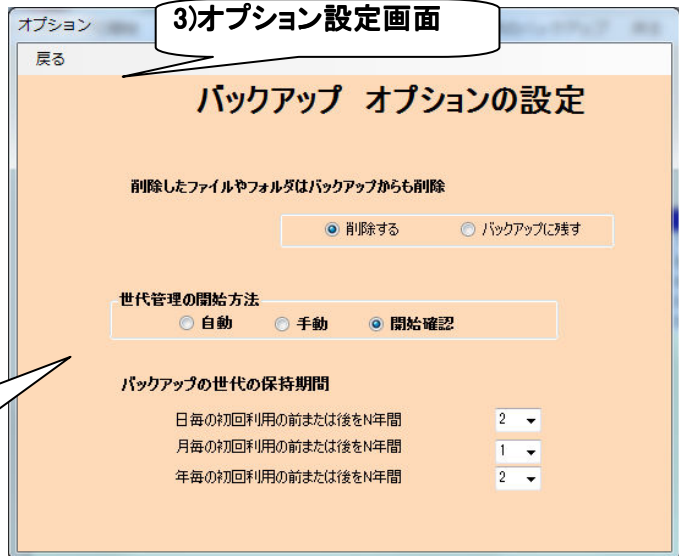
2)設定画面

バックアップ元フォルダとバックアップ先フォルダを指定する

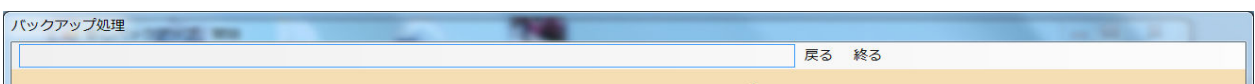


3)オプション設定画面

世代管理に関する指定は、「バックアップの世代管理」画面でもできるが、自動を手動に切り替えるのはこの画面でしかできない。



4)実行画面



世代管理のバックアップを実行しますか

オプションで世代管理の起動方法を「確認」とした場合はこの確認画面がでる。世代管理は時間がかかることもあるのでその日の予定によって実行したり止めたりできる。

2) 世代管理の設定

世代管理

世代バックアップの開始 バックアップ先の追加 戻る 終了

バックアップの世代管理

下記一覧の特定行をクリックすると「バックアップ先のフォルダ」にバックアップを取ります。右クリックで対象外になります。

[世代管理対象]としたもののみ世代管理の対象になります。
 世代は日、月、年の順に世代が経過して削除するタイミングで次の世代が未保管のとき保持します。

現在設定されている複数世代のバックアップ先
 対象一覧から選んだフォルダにバックアップを取ります。

<Folder>I:\安心バックアップ\世代管理<Volume>SAT A512G安心 I
 <Folder>Y:\安心バックアップ <Volume>IDE1 60Gバックアップ

世代管理の開始方法
 自動 手動 開始確認

バックアップの世代の保持期間
 毎日の初回利用の前または後をN年間 2
 毎月の初回利用の前または後をN年間 1
 毎年の初回利用の前または後をN年間 1

世代のバックアップは手動以外は利用後の状態、手動は実行のタイミングで更新前か後のとがらの状態のバックアップになるかが決まります

バックアップ指定一覧	Fromフォルダー	ボリューム	Toフォルダー	ボリューム	世代フォルダー	ボリューム
<input checked="" type="checkbox"/>	Z:\Log\malice	常駐ディスク	I:\安心バックアップ	SAT A512G 安心 I	I:\安心バックアップ\世代管理	SAT A512G 安心 I
<input type="checkbox"/>	Z:\アルバム管理	常駐ディスク	I:\安心バックアップ	SAT A512G 安心 I		
<input type="checkbox"/>	Z:\プロ写真集保管	常駐ディスク	I:\安心バックアップ	SAT A512G 安心 I	I:\安心バックアップ\世代管理	SAT A512G 安心 I
<input type="checkbox"/>	C:\棋譜管理	SYSTEM	I:\安心バックアップ	SAT A512G 安心 I	I:\安心バックアップ\世代管理	SAT A512G 安心 I
<input type="checkbox"/>	Z:\投稿データの保管	常駐ディスク	I:\安心バックアップ	SAT A512G 安心 I	I:\安心バックアップ\世代管理	SAT A512G 安心 I
<input type="checkbox"/>	Z:\カーナビSD保管	常駐ディスク	I:\安心バックアップ	SAT A512G 安心 I	I:\安心バックアップ\世代管理	SAT A512G 安心 I
<input type="checkbox"/>	Z:\USB8G	常駐ディスク	I:\安心バックアップ	SAT A512G 安心 I	I:\安心バックアップ\世代管理	SAT A512G 安心 I
<input type="checkbox"/>	Z:\USB8G	常駐ディスク	Y:\安心バックアップ	IDE1 60Gバックアップ	Y:\安心バックアップ	IDE1 60Gバックアップ

世代管理は論理的な破壊(うっかり中身を削除してしまったりなんらかの理由で更新前の状態に戻したい)の復元に役立つ。したがって、世代管理の意味の無いものもあるので、そのフォルダは世代管理の対象外にする。複数の世代バックアップを取る事で物理的、論理的破壊への安全性が高まる。

複数の世代バックアップをとる場合は、ここで選んで(背景色がつく)下段の一覧を左クリックする。世代バックアップの対象外にするのは右クリック。

3) 実行画面

世代管理は

日レベルの保管期間系過分が月レベルの最新の世代として保管され
 月レベルの保管期間経過分が年レベルの最新の世代として保管される。
 削除は

年レベルの保管期間経過
月レベルなしの日レベル系過分
年レベルなしの月レベル系過分

世代管理処理実行

戻る 終了

世代別管理 保管処理の実行

開始時刻 2010/07/25 17:37:16 完了時刻 2010/07/25 17:50:49 **処理終了**

バックアップファイル数 12785

バックアップ状況一覧 直近の処理を上部に表示 (注)処理中に画面のどこかをクリックすると画面がロックしますが、処理は継続しています。

```

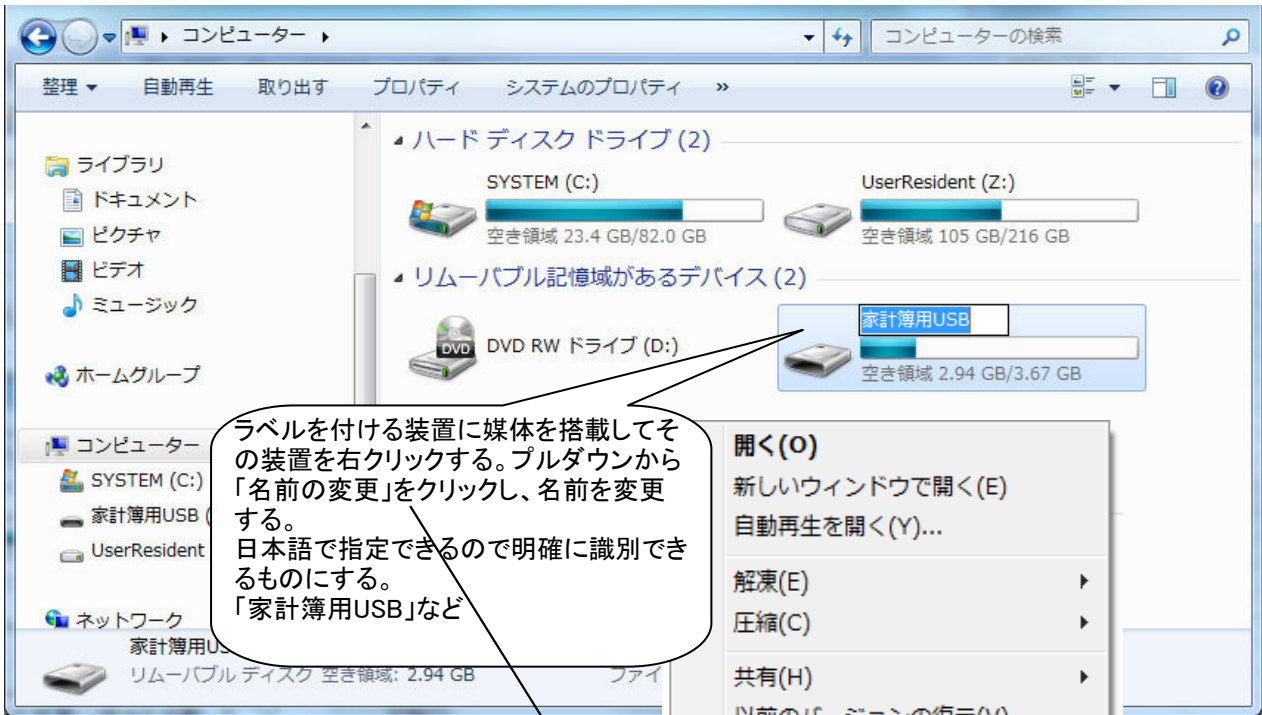
<処理完了>
2010/07/25 E#安心#バックアップ#世代管理 当日の世代管理バックアップは完了しています。
月レベル保管 => E#安心#バックアップ#世代管理#Month-1
日レベル経過削除 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-3
世代管理ソフト => E#安心#バックアップ#世代管理#Month-2
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#yamada#Toshokan#Toshokan#Job#Release#TempPE#My Project.Resources.Designer.vb.dll
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#yamada#Toshokan#Toshokan#Job#Release#TempPE
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#yamada#Toshokan#Toshokan#Job#Debug#TempPE
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#yamada#Toshokan#Toshokan#Job#Debug#TempPE
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#TOTO_OB#仕訳帳子エック#仕訳帳子エック#Job#Debug#TempPE
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#TOTO_OB#仕訳帳子エック#仕訳帳子エック#Job#Debug#TempPE
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#Toshokan#NdcCheck#NdcCheck#Job#Release#TempPE#My Project.Resources.Designer.v
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#Toshokan#NdcCheck#NdcCheck#Job#Release#TempPE
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#Toshokan#NdcCheck#NdcCheck#Job#Debug#TempPE#My Project.Resources.Designer.vb
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#Toshokan#NdcCheck#NdcCheck#Job#Debug#TempPE
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#KyoudoFtp#kyoudo#Toshokan#Job#Release#TempPE
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#KyoudoFtp#kyoudo#Toshokan#Job#Debug#TempPE
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#RenameChan-V3.1#bin#system#TrashTrash#20070901_190811#AlbumAdjustDir
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#非公開ソフト#RenameChan-V2.8old#bin#system#TrashTrash#20070901_190811#AlbumAdjustDir
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32JEX#CVS#Root
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32JEX#CVS#Repository
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32JEX#CVS#Entries
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32JEX#CVS
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32J#CVS#Root
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32J#CVS#Repository
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32J#CVS#Entries
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#ZIP32J#CVS
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#MINZIP#CVS#Root
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#MINZIP#CVS#Repository
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#MINZIP#CVS#Entries
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Zip32#zip32#SRC#MINZIP#CVS
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Tar32#tar32_2#src#lib#CVS#Root
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Tar32#tar32_2#src#lib#CVS#Repository
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Tar32#tar32_2#src#lib#CVS#Entries
フォルダ作成 => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Tar32#tar32_2#src#lib#CVS
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Tar32#tar32_2#src#bz#zip2#CVS#Root
バックアップ => E#安心#バックアップ#世代管理#Day-1#常駐ディスク#USB8G#Download#Cldx#Tar32#tar32_2#src#bz#zip2#CVS#Repository

```

4. 補足
4.1 ラベル名のつけ方

「スタート」 → 「コンピュータ」 で下図画面が開く





ラベルを付ける装置に媒体を搭載してその装置を右クリックする。プルダウンから「名前の変更」をクリックし、名前を変更する。
日本語で指定できるので明確に識別できるものにする。
「家計簿用USB」など

- 開く(O)
- 新しいウィンドウで開く(E)
- 自動再生を開く(Y)...
- 解凍(E)
- 圧縮(C)
- 共有(H)
- 以前のバージョンの復元(V)
- ウイルス検査
- ライブラリに追加(I)
- フォーマット(A)...
- コピー(C)
- ショートカットの作成(S)
- 名前の変更(M)
- プロパティ(R)